

「長野吉田高校生による学習チューター」に参加して

於：長野市立東部中学校 令和3年7月26日・27日 参加生徒15名

※参加生徒の感想をまとめました。なお、抜粋の過程で文意を損なわない程度の加筆修正をしてあります。

◎教育の道へ進むことで得られる喜び、楽しみについて

経験できたように思います。一人で黙々と勉強している男子生徒に分からないことがあるかと訊くと、困ったように下を向きながら「これが分かりません」と一言。図などを使って頭をフル回転で教えると、笑顔が生まれ「そうなんだ」と一言。たった一問のことではあったのですが、分からないことがわかるようになるだけで、こんなにも人は変わるんだと驚きました。

(3年)



◎一言では言い表せないほど貴重な体験ができました。一番の収穫は、教えることの大変さを知ることができた点です。生徒の立場だと理解し解けるようになれば終了ですが、教員の立場となると、自分が理解していることにプラス、どう伝えればわかってもらえるかを考える必要があるということを感じました。(3年)

◎「高校受験の問題なんて全く覚えていない」という不安と説明が苦手なことに対する緊張で待っていると中学生が教室に入ってきた。自習時間が始まり静かな空間となっていく中、話しかけてよいのかどうかためらっていると、一緒に参加していた1、2年のチューターが積極的に声をかけていて、その姿に勇気をもらいました。(3年)

◎うんうんとうなずいてくれたり、だんだんと表情が変わり「解けた！」というようなすっきりと明るい表情を見せてくれたり、「わかりやすかったです。ありがとうございました！」と笑顔で言ってくれたりした東部中の生徒のお陰で『教える』ことの楽しさを知ることができ、「やはり教師になりたい」という想いを固める良い機会になりました。(3年)

◎中には、説明が上手く伝わらなかったにもかかわらず「わかった」と言い、類似の問題で苦戦する子もいた。そこで自分は「どうやって伝えるのが良かったのだろう」と考えた。「一方的に知識を詰め込んでも疲れてしまったり、混乱してしまう」そう思い、最近起こった出来事や中学生にとって身近なもので例え話をしたり、少しずつわかりやすいところから質問したりと、一緒に寄り添って解く方向に教え方を変えた。すると数分前には解けなかった問題はもちろん類似の問題も自力で解けるようになり、「伝え方ひとつで生徒の成長もこんなに変わるんだな」と感じた。(3年)

◎教えていく中で、「相手が、何がわからなくて結果として間違えているのか」ということに気づくことの



大切さを知りました。間違いや疑問の根底には確実にわからない部分があり、そこにいかに早く気づき、その部分を相手が理解できるように教えるかが、間違いを正す上で、一番大切なのだと気づきました。(3年)

◎教える側に立つということがどれほど難しく大変なことであるか、よりはっきり見えるようになった気がします。まだこれからも教わる側としての生活が続いていきますが、今回参加してわかった教える側での感じ方など、この先に意識を向けていきたい。(3年)

◎合計3時間近く教えていましたが体感としては、あっという間でした。「中学生はそれぞれ志望校を決めていて偉いな」と思いました。現役の高校生から高校の話聞くという体験は、兄弟がいなければなかなかできないと思うので、有益になるかもしれないアドバイスを幾つかしました。中学生たちが志望校に向けて頑張っている姿に、私も勇気をもらいました。再確認できた夢に向かって私も頑張っていきたいです。(3年)

◎高校受験を頑張る姿を見て、自分も受験を頑張ろうと思った。東部中の生徒は、わからないことがあれば積極的に質問していました。自分はわからないことがあっても質問するのが恥ずかしくて、問題を放置したまま進んでしまうことが多いので、中学生を見習って積極的に質問していこうと思いました。(3年)



◎この体験を通して、教えることはいろいろと考えなければならないこと、相手の中学生が問題を解き切れた時の教える側の喜びを知った。この企画に参加しなければこのような発見はできなかった。大学に行ったら教育実習があるので、今回の体験を踏まえて行えればと考えている。(3年)

◎先日の小学校での体験実習の参加を踏まえて、小学生と中学生との違い、小学校教諭と中学校教諭との違いを見てみたいと参加しました。参加してみて、中学生が自分の苦手に真摯に向かい合っている姿が印象的でした。友達同士で教え合ったり、学習チューターの自分に訊いてきたりと、小学生より自主性や協調性のある子が多いと思いました。また、中学校教諭は小学校教諭よりも、より専門的で深い知識が必要だということを改めて実感しました。(2年)

◎友達に教えるのとは違った緊張感を持ち取り組むことができました。また、どれだけわかりやすく教えられるかというところに意識しながら教えることができました。基本的な問題を訊いてきた時にはしっかり教えることができたものの、自分が中学生の時に当たり前のことだと思っていたところを質問された時には、どのように教えればよいかわからなくなり、あまり良い返答ができませんでした。学習チューターに参加して、改めて教えることの難しさを知りました。(1年)

◎今回二つのことを学びました。一つ目は相手にわかるように自分の考えていることを言葉にすることの難しさ。二つ目は教えることの楽しさです。この経験を生かして自分は将来、どのようになりたいのかを考え、これからの学校生活を充実させていきたいです。(1年)

◎参加した3年生の先輩が笑いを交えながら説明をしていたり、中学生に積極的に話しかけたりと学べる姿がたくさんあった。自分の解説で納得してくれた時の達成感が大きかった。先生方もそんな思いをやりがいとしているのではと感じた。夏休み明けに控えている文理選択までには、大学の何学部で勉強したいのか、ある程度決めた状態でいたいと思った。(1年)



◎持参のタブレットを使って問題を教えたことで自分も楽しく教えることができた。図形の問題では、紙に描くよりもきれいにかつ正確な図形を描いて教えることができた。また中学生にタブレットを使って問題を解いてもらうことで楽しく問題を解く姿が見られた。このように、時代に合った教材として、タブレットでの教育は、とても有効であると感じることができた。

(1年)